

2009年7月29日

- 記者からの質問

- 当社からの回答

- サポート・サービス事業について、この1Qも売上が増えましたが、どのような分野が増えたのか、もう少し具体的に説明してください。
 - 物流関係の企業や、いわゆるものづくりに関わる企業向けを中心に、ほぼ全ての市場向けで保守事業が拡大しました。また、データセンターを通じた監視・管理といったネットワークのアウトソーシング分野も伸びました。
- サポート・サービス事業の利益の増加について、経営改革の効果、内製化の効果はそれぞれどのような内訳だったのですか
 - サポート・サービス事業の利益については売上総利益(GP)が5億円増えました。これは、1つは売上増の効果で、もう1つが経営効率化の効果です。パーツセンターやデータセンターといったサービス基盤の整備など、様々な形で経営改革を行い、効率化を図っていますが、内製化はその1つの成果として進めています。
- 今回の増益は想定通りですか。今後も原価低減を進めることで、通期の減益予想を上回れるのではありませんか。お客さまの投資意欲は回復しませんか。
 - 1Qの利益は概ね想定通りの進捗です。経営改革はさらに加速させていき、現在の予想をボトムとして上積みできるように努力していきますが、まずは、期初に立てた予想をきちんと達成することに注力したいと考えます。
 - 下期以降については、お客さまの投資が回復するのか、全く不透明な状況ですが、通期売上目標2300億円については、現実的な数字と考えています。この1年は費用削減を含めた経営改革活動を強化、加速することが重要と考えており、社内目標を定めて取り組んでいるところです。
- 金融業向け売上は各社厳しいようですが、NECネットエスアイでは1Qは前年同期並みでした。回復してきているということでしょうか。
 - 1Qの売上は、プロジェクトの状況などからある程度見えていたことですが、まだまだ回復傾向にあるということではないと見えています。
- キャリア向け的高速化投資とはどのようなものですか。
 - 3Gでの高速化を実現するための投資です。LTEについて本格的に立ち上がるのは来年度に入ってからと見えています。
- 自治体向けの補正予算についてはどのような状況ですか。仮に政権が変わったらどうなるのでしょうか。
 - 補正予算については当社の事業に結び付けるべく期待していますが、まだ具体的に

は見えておらず、2300億円の売上目標にも織り込んでおりません。具体化に時間が
必要ですから、業績に影響が出始めるとしても、年度末ぐらいからではないかと考えて
います

→ 地上デジタル放送の視聴エリア拡大、難視聴対策などを含むデジタルデバインド(情報
格差)の解消に向けたネットワーク整備や、消防・防災などといった分野は、政権にか
かわらず整備しなければいけない社会的に重要な分野であると考えており、当社とし
ても十分に貢献できると考えております。

以上